

日本福祉心理学会第 19 回大会 終了のご報告とお礼

謹啓

陽春の候、皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より、格段のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、日本福祉心理学会第 19 回大会の開催に際しましては、多大なるご支援とご協力を賜りまして誠にありがとうございました。今大会は令和 3 年 12 月 25・26 日にて、前大会に引き続き新型コロナウイルス感染症対策のためオンライン形式にて開催いたしました。おかげさまで 97 件の申し込みのうち多数の方々にご参加いただき、大会を無事に終了することができましたことを心より感謝申し上げます。大会の運営にあたりましては、不行届きの点もありご迷惑をおかけしましたことと存じます。何卒、ご寛容くださいますようお願い申し上げます。

本大会においてはテーマである「こころを紡ぎ未来へとつなぐ福祉心理学」に相応しい講演やシンポジウムの内容から、大いなる学びの機会を得ることで有意義な大会を開催することができました。さらに会員の皆様による 5 つの口頭発表と 16 件のポスター発表、さらに自主シンポジウムによって、多くの知見を得ることができたと感じております。これもひとえに会員の皆様方、お忙しいなか大会の準備にお力添えいただきました実行委員の先生方、座長・演者およびコーディネーターの方々のご理解とご協力の賜物と心より感謝申し上げます。また運営に関しては、多数の機関や施設、企業の皆様から、共催ならびに広告などのご協力とご支援を頂き、大会を開催・運営することができました。ここにあらためて感謝申し上げます。

さらに本大会を踏まえて日本福祉心理学会におきましては、福祉現場の実践と福祉心理学の理論・研究が双方向に交わりながら、さらなる発展につながっていくことを期待しております。本学会の今後の更なる発展を祈念して第 19 回大会の報告とさせていただきます。誠にありがとうございました。

謹白

令和 4 年 4 月 6 日

日本福祉心理学会第 19 回大会
大会長 占部 尊士
(西九州大学・短期大学部)